

今月の題字



くまの

熊野第三小学校6年 稲荷 望愛 さん

熊野第三小学校2年 高濱 大謙 さん



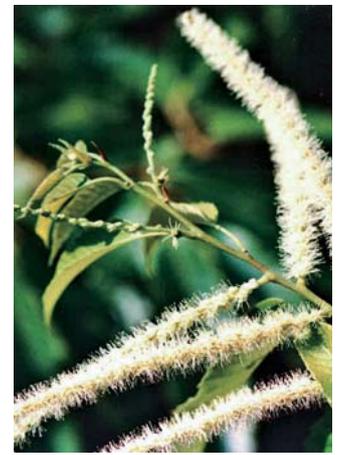
【評】たからばこのかぎを開けたら、楽器がいっぱい出てきました。楽器の特徴をしっかりとつかんでいて、いろいろな音が聞こえてくるような楽しい絵です。

熊野第三小学校4年 岡野 葵 さん



【評】岡野さんは「木」と「きへん」の違いを見つけ、形がどのように変化するか左右の組み立てを考えながら書きました。「へん」の左払いに対応するように、伸びやかに8画目を書き、形を整えて書くことができました。

熊野の自然 (381)  
クリ (ブナ科)



6月。栗の花の季節です。今年伸びた枝の下部の葉腋から、黄白色の尾状の雄花序を1本ずつ出します。突き出た雄しべが多数並び、細長いブラシのようです。特有の青臭い匂いが漂います。花粉を媒介してくれる虫を呼び寄せているのです。写真中央の小さな固まりが雌花序です。今年枝の上部の雄花序の基部に1〜2個つきます。直径3mmほどの総苞に雌花が3個入っています。総苞から突き出ているのは雌しべの花柱です。総苞は刺が密生した毬となり、秋に熟すと4片に裂けて堅果が現われます。堅果は普通3個入っています。古くから食用とされ、様々な料理や菓子に使われます。

葉は有柄で、互生します。長楕円形で先が尖り、多数の側脈が平行に並びます。鋸歯の先の突起にも緑色の葉肉組織が付いていて、葉裏に小さな腺点があります。北海道西南部〜九州に分布する落葉高木で、樹皮は灰黒色。老木では縦に長い割れ目があります。材は腐りにくく、家屋の土台や鉄道の枕木などに利用されました。木目が美しく、家具や工芸品などにも用います。名は、果皮が黒っぽいので、クロがクリに転訛したとの説があります。シバグりは堅果の小さい野生種です。栽培種は堅果が大きく、タンバグリが有名です。

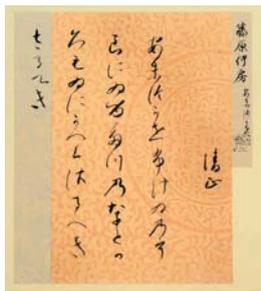
【写真・文】  
緑花文化士 富沢由美子

筆の駅ミニギャラリー

●筆の里工房芸員展  
〜書・油彩画・映像〜  
時6月3日(木)〜15日(火)

筆の里工房に勤務されている5人の芸員が、それぞれの得意分野を生かして制作された作品を展示します。

出品者：松村卓志、松本未穂、吉田拓、山本彩、井田明宏



井田明宏 『臨十五番歌合(手鑑「世尊寺」)』2018年

熊野町観光案内所「筆の駅」

熊野町出来庭10・6・24

開855・1123(いいふみ) 開10時〜16時

(各展示の最終日は15時閉場)

休水曜日・第3日曜日

※無料

※ギャラリーのご利用については、お問い合わせください。



防災無線放送再生ダイヤル  
082-820-5640 (放送終了後24時間自動消法)

